

## 団員の感想

### 「訪中を終えて」

私はこの度、日本高校生訪中代表団4陣に参加し、様々なことを体験、学習致しました。

まず、北京市においては、「中国4千年の歴史」として知られる、偉大な中国の歴史を肌で感じ、中国の首都の機能を間近で見ることができました。万里の長城は秦、明の時代に造られたとは思えないほど立派で、長城の階段は与えられた時間内では登りきることができないほど長く、立派なものでした。また、下から見た山頂にかかる万里の長城は壮観で美しく、英語で“The Great Wall”と呼ばれるのも頷ける素晴らしさでした。天安門広場では毛沢東を尊敬し、社会主義の象徴として政治を推し進めるという、日本とは違う政治体制を見ることができました。社会主義国である中国の行政の中心部を訪れ、見学することができたのは、日本と中国の政治の違いを勉強する上で、とてもいい機会であったと思っています。故宮博物院では、中国の皇帝の暮らしていた居城ならびに当時の政治、儀式などに使われていた施設を見学することができました。故宮にある建築物は、いたるところに意味を持った造りが施されていて面白かったです。例えば、一つの宮殿は、階段が雲を象った形に造られていて、皇帝が雲より高い地位にある絶対的な存在であったことを表現していました。このように、建築物の造りから、歴史を紐解くというのも分かりやすく、面白いと思いました。

北京の次に訪れた成都市では、主に、現地の人々との交流を行いました。現地の高校生は皆フレンドリーで私たち日本の学生を心から歓迎してくれました。中国の生徒たちが心を開いて接してくれたので、私も自然と心を開くことができ、たくさんの成都の生徒と友だちになることができました。その友だちの中には独学で日本語を勉強していて流暢に話せる生徒が何人かいて、とても好奇心旺盛で、日本人より遥かに強い知識欲を持っているのだと気付かされました。ホームステイでは、家族の皆が、客人である私を家族の一員のようにもてなしてくれ、私が何か困っていればすぐに助けてくれました。ホームステイする前に抱いていた小さな心配は、このもてなしを受け、すぐに消えました。ホームステイ2日目でも、私の好みを踏まえた上で、様々な場所に連れて行ってくれ、私に楽しい経験をさせてくれました。家族との別れは、言葉が通じなかったホストマザーを含む、家族皆が泣いてくれ、とても悲しく辛いものでした。成都ではこの旅で一番の思い出を作ることができたと思っています。

訪中の最後は、上海を訪れ、素晴らしい夜景を見学させてもらい、とても感動しました。ですが、私の中では、空港へ向かうバスで先生から聞いた「日本と中国は永遠に隣国だから、永遠に付き合い続けなくてはいけない」という言葉が私の印象に残っています。この言葉の通り、日本と中国は古くからずっと繋がりをもち、共に発展してきた歴史があります。そして、私たち若者はこの関係を続かせる、そしてさらに繋がりを強くする使命があります。そして、今回中国を訪れさせてもらった私たち訪中代表団が率先してそれを行わなくてはなりません。この訪中では先生、ガイドさん、日中友好会館の皆さまの手配、援助のおかげで、私たちはとても有意義な研修ができました。とても感謝しています。これからはこの事業を無駄にしないよう、日中友好のために全力で努めていきたいと思っています。

(神奈川県1年男子)

## 「未知数の経験、未来への希望」

中国に派遣される以前の私は、ニュースで報道されているパクリ疑惑や空気汚染、外交問題等の話が影響してか、中国という国に対して、あまりいい印象を持っていませんでした。また、説明会でホームステイをするとの話を聞いたとき、英語が大の苦手な私は1週間も中国生活を送ることなど不可能だと思いました。不安と恐怖心だけが募ったまま迎えた初日、生まれて初めて中国という都市を自分の目で見ました。入国前の予想通り、日本に比べて空気がいいとは言えませんでした。しかし、不安ばかりが募っていた私も、2日、3日と日にちが増すごとに、中国ならではの美しさや、今まで知らなかった古い歴史について学ぶことができ、次第に中国へ興味が湧いてきました。また、学校訪問の際に一緒にバスケットをしたり、切り紙で蝶々を作ったりと、少しずつ現地の高校生との交流も深めていくことができました。そして、不安が消え、全てが興味に変化していた4日目、パンダ繁育研究基地を見学した後、私たち高校生はホームステイ先に移動しました。中国側の高校生は同学年とは思えないほど英語が堪能で、うまく聞き取ることのできなかつた私は何度もノートに英文を書いてもらいながら、しどろもどろな返答で、何とか会話をしました。こんなに英語ができなくて、相手方に迷惑をかけていないだろうか…と、何度も心配になったくらいです。ですが、ホストファミリーの方は嫌な顔一つせず、緊張で余計に無言になってしまった私に「これは甘くておいしいのよ」、「一緒に記念写真を撮りませんか?」、「どこか行きたい場所はある?」など、会話をしやすいよう配慮してくださり、本当の家族のように温かく、一緒にいて安心感が湧くような方たちでした。文化の違いも影響してか、電子辞書やジェスチャーを使わないと通じない部分もありました。相手の伝えたいことが理解できなかつたり、うまく返答ができなかつたりと、何もかもが順調に進んだわけではありませんでしたが、一緒にショッピングをしたり、プリクラを撮ったり、卓球をしたりと、言葉は通じなくても心を通わせる場面は沢山ありました。また、日本に興味を持っているらしく、「“Hello”は日本語で何ていうの?」、「日本で有名な音楽は何?」など、お互いの国について情報を交換し合ったりもしました。不自由な面も多々ありましたが、時間が経つにつれて、徐々に、私とホストファミリーの方の間の隔たれていた他国という壁が取り払われたような気がします。一緒に食卓を囲み、自分の国について話し、記念品を交換し合った新鮮で楽しい生活も、ついに終わりがやってきました。入国してから6日目、私はホストファミリーの車に乗り、日中友好会館の方が待つ学校へと向かいました。学校には既に到着していた日本の高校生たちが、ホストファミリーの方と楽しげに会話していました。私も最後は笑ってさよならをしようと、前の晩、決めていたのですが、相手の方が“I hope you happy everyday”と、優しく私の頭を撫でてくれた瞬間、堪えていた涙が溢れだしました。私がバスに乗っても手を振り続けてくれるホストファミリーの方たちに笑ってさよならはできませんでしたが、今回の中国派遣を通して、私は人々の温かさを知り、「これから先の未来を一緒に築き上げていけたら」と、将来への期待と願いが生まれました。

(神奈川県1年女子)

## 「中国に学ぶ」

今回のこの研修では、中国の歴史の厚さ、スケールの大きさ、人々の優しさ、環境などを実際に体験することができました。そんな貴重な体験の中から私はホームステイのことを書きたいと思います。

ホームステイ1日目、現地校での交流を終え、ドキドキしながらホストファミリーのお迎えを待っていました。いざ対面すると、とても優しく笑顔で私を迎えてくれました。その後、夕食をホストファミリーの陳さん一家と、四川料理店で楽しく談笑しながら、おいしい料理をいただき、21時半頃家に着きました。そこから、ホストブラザーである敬徳君と日本の大学の話をし、その流れで勉強を教えてもらいました。教科は数学と生物で、彼は私よりも一つ年下であったにもかかわらず、私が日本で勉強していた内容をすでに理解しているだけでなく、私がまだ勉強していないようなことまで理解していました。私は驚きと感心の入り混じる思いで彼に質問をしました。「どうしてそんなに勉強熱心でいられるのですか？」と。そして彼は、「中国ではこういう考え方をします。『努力することが成功への道なのです。天才と言われる人達は皆、必ず努力しているはずです』」と答えてくれました。私はその言葉に胸を打たれました。これから私たちが出ていく「世界」という大きな社会の中で、このような素晴らしい考え方を持っている人達を相手に交流していく上で、自分の普段の生活態度を振り返ってみると、とても恥ずかしくなりました。これからの将来を考えていく上で、敬徳君が教えてくれたことをしっかり自分のバネにしていきたいと思います。

もう一つ敬徳君から学んだことがあります。それはホームステイ2日目、成都市内の観光に連れて行ってくれたときの事です。そこは三国志ゆかりの地で、市内でも有名な観光地で、敬徳君とお母さん、敬徳君の友人の呉君とそのお母さんの4人が案内をしてくれました。建物の中に入ると、敬徳君と呉君は私にその場所の歴史と逸話などを、まるで職業のガイドさんのように教えてくれました。そこでふと思いました。日本では自分の国の歴史、文化、特徴について、人に教えられるほどよく知っている人がどれくらいいるのだろうか。そのことを考えたときに、国際交流・国際理解の大切なポイントはそこなのではないかと思いました。

国際交流・国際理解とは、他国と自国の文化を伝えあい比較するもので、他国のことを学ぶだけでなく、自国のこともしっかり知っておかなくては成立しないものなのです。そのことを考えると、彼らは私が尊敬する国際人の鏡だと感動しました。私も彼らのようにするために、努力を惜しまず日々学習に励んでいきたいと思います。

最後に、このような貴重な体験をさせていただいて、本当にありがとうございました！！  
(神奈川県2年男子)

## 「シェイシェイ」

「シェイシェイ」この言葉を何回言ったことでしょうか。今回私は日本高校生訪中代表団第4陣の一員として初めて中国を訪問させていただいて、本当にたくさんの方々にお世話になりました。訪問前、中国は私にとって近くて遠い存在でした。身の周りには中国製品が溢れ、

漢字や茶など共通の文化を持ちながらも、実際中国についてはほとんど知らず、不安と少しの期待を抱えて迎えたこの訪中でした。しかし帰国する時には、帰りたくない、もっと中国にいたい、と強く思っている自分がいました。そう思えたのはやはり、訪中団の仲間、先生方、日中友好会館の皆さん、そして現地で出会った方々のおかげです。

様々な体験の中で、私の心に最も強く残ったのはやはりホームステイです。私のホストフレンドのヘーロンは、明るい笑顔で私を迎えてくれたので、お互い相手国の言葉は話せませんでしたが、英語でコミュニケーションをとり、すぐに打ち解けることができました。家では彼女の祖父母が温かい笑顔と手料理で迎えてくださり、本当に親切にしてくださいました。2日目はヘーロンに成都市内を案内してもらいました。成都是とても広く、歴史的な建物、伝統的な通り、多くの人で賑うショッピング街など、何もかもが素晴らしく感動の連続でした。また、現地で多くの友人ができました。お互いの学校について話していると、彼らが通う学校は、朝7時半から夜8時半までの日程で、日本の様な副教科や部活動がないことがわかりとても驚きました。夜は親戚が集まって、ホットポットという鍋を囲み、楽しいひと時を過ごしました。あっという間に過ぎてしまった2日間でしたが、たくさんの人の優しさに触れ、忘れられない思い出となりました。

ホームステイ以外にも、鳥の巣や万里の長城、天安門広場、故宮博物院の見学では、目に映るもの全てが新鮮で、中国の歴史と文化を肌で感じ、とても勉強になりました。そしてもっと中国の歴史を知りたいと思いました。歓迎パーティーでドラえものの歌を披露したことも強く印象に残っています。どのプログラムも一生忘れることはないでしょう。

この1週間本当に充実した時間を過ごすことができました。中国という国を自分自身の五感で感じて、私の中国に対するイメージや考え方は180度変わりました。これからこの貴重な経験を1人でも多くの人に伝え、たくさんの人に中国のことを知ってもらいたいです。そして日本と中国の交流がさらに盛んになることを願っています。

今回の訪中に携わってくださった全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました。シェイシェイ！

(愛知県2年女子)

### 「経済と教育から見る中国」

私はこの平成23年度日本高校生訪中代表団第4陣に参加させていただくことによって、中国の文化・歴史・経済そして教育的な分野において深い理解を得ることができました。この4方面についてすべて感想を語ることは難しいので、出発前より興味を持っていた“経済・教育面”から北京・成都・上海での7日間を振り返りたいと思います。

北京では、高層ビルが林立し、我々日本人にもまだ記憶に新しい鳥の巣（北京オリンピックでのメインスタジアム）等を見学することができましたが、注目すべきはその規模でしょう。建築物は日本のものとは比べられないほど高く、遠くからも見えるような大きさがありました。中国の技術は「まだそれほどでもないだろう」と考えていた私は経済発展のスピードの速さに驚嘆しました。

成都では、これからの中国経済をリードするであろう高校生との交流がありました。北京では、学校訪問はあったものの時間の都合で十分な交流とは言えませんでした。成都での

二日間のホームステイでは“次の世代”への教育が着実に成果を上げているのをひしひしと感じることができました。多くの訪中した高校生が感じたような＜英語教育が進んでいる＞ということや＜学習時間が長い＞ということもあるでしょうが、私は中国の高校生が持っているものは、“積極性”なのではないかと思いました。ホームステイをしている間、私はホストファミリーだけでなく、多数の現地の高校生から日本の質問を受けました。中国と比べてどうなのか、日本の学校はどんな様子なのかを私が中国について聞く前に次から次へと質問をするのでかなり困惑してしまいました。授業でもこのようにしているのだとすると、学習の理解も一層深まるはずです。日本で同じ授業を受けたとしても受け手に積極性が無ければ、中国ほど自身の糧にすることは難しいでしょう。そもそも質問をするには、相手国に対するある程度の理解と知識が必要です。彼らはそのデータベースができており、このグローバル社会を生き抜く力をすでに持っていると感じました。

上海では、夜景を見るだけでしたが、その時、現地の方が言った何気ない一言がとても印象的でした。上海にはすでにたくさんの多国籍からなるビルが存在していました。しかし、「これからもまだまだ大きなビルが増えていきますから、また見に来てください。」と言うのです。それを聞いたとき、これだけ発展してもなお中国人には“未来を創り続ける揺ぎ無い自信”がある。中国の本当の凄さはここにあるのだなと思いました。

中国の偉大な歴史、経済発展を遂げる姿、そしてこれからを支える高校生たち……。中国の経済や教育を通して、私は中国の過去・現在・未来を見ることができたように感じます。

(愛知県 1年男子)

### 「訪中で学んだこと」

「中国」という国家に、我々日本人が持っている印象は、基本的にはあまり良くない類のものだと思います。実際に私も、戦争などの過去の辛く悲しい出来事から、中国の人々は日本人に良くない感情を抱いているものだと思い込んでいました。しかし私のその考えは、1週間の訪中の中に、良い意味で大きく覆されることになりました。

私は今回中国を訪れる前に、中国の人に過去の日中の関係について聞かれたら、自分はどう答えたら良いのだろうかとずっと考え、それを聞かれることをとても恐れていました。しかし中国の人からそのことについて聞かれることはありませんでした。中国の人から反日の感情を感じることもありませんでした。それどころか中国の人は、私たち日本人への興味や関心、友好の意を、機会があるごとに表そうとしてくれたのです。

私がこの訪中の際に訪れた北京市第十九中学と、四川師範大学実験外国語学校の生徒はみんな、私たち日本人の来訪を心から楽しみにしてくれていたし、私たちについて少しでも多くのことを知ろうとしてくれました。特に漫画やアニメなど、日本の文化には大いに興味を持っていて、それについて話したときには、言葉や歴史の壁というものを、私たちは今まさに乗り越えて、「友達」という存在になろうとしているのだと、感動のような感覚すら覚えました。それは、私たち日本人が、これまで中国の人々に抱いていたイメージとは、全くかけ離れたものでした。

私は、今回の訪中で学んだことを、多くの、前の私と同様に、中国に対してあまりよくな

いイメージを持っている人々に伝えていきたいと思っています。そしてこの期間にできた多くの友人を、これからもずっと大切にしていきたいです。それが、これからの日中の友好に、少ないながら、貢献できる一つの方法だと思うからです。

今回の訪中は、私にとって、最初は、不安と期待の入り混じったものでした。ですが実際に行ってみて、感じていた不安というものが、いかに不要なものだったかということを実感しました。「中国」という世界の一端を、少しでも知ることが出来た、この経験は私に、大きな影響を与えたと思います。今回の経験を、自分のこれからの生活や人生に生かしていけると強く思います。

(愛知県2年女子)